

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：33202

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530746

研究課題名(和文) スクールソーシャルワーカーの学校現場への定着に向けた総合支援カルテの開発

研究課題名(英文) Development of the total support program for getting school social workers entrenched in schools

研究代表者

村上 満 (MURAKAMI, MITSURU)

富山国際大学・公立大学の部局等・准教授

研究者番号：10555197

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、スクールソーシャルワーカー(以下、SSWer)が確実に学校現場へ定着するための総合評価支援システム(富山モデル)の構築を目的として研究を行った。

まず1年目は、SSWer関連の全論文を収集し、レビューとしてまとめたほか、システムの基礎となるカルテの試案を作成した。2年目は、「スクールソーシャルワーカーエンパワメントスケール(以下、SSW-ES)」を開発した。3年目は、SSW-ESを用いて、中部・信越地方のSSWerを対象に実態調査を行い、SSWerのエンパワメント概念モデルの提案と、Webを活用したSSWerと教員との協働評価システムを開発した。

研究成果の概要(英文)： This research focuses on the support for getting school social workers (SSWer) entrenched in schools and aims at establishing the total comprehensive evaluation system (Toyama Model).

For the first year, I collected and reviewed all research papers with the keyword of "School social work". And then I developed a trial program for the promotion of understanding SSWer's activities. For the second year, the research focused on "Empowerment Scale". In the result, I developed the "School Social Worker Empowerment Scale (SSW-ES)". For the third year, the questionnaire survey on the fact finding of empowerment was conducted and the study focused on development of the evaluation system. With SSW-ES, the survey was carried out for SSWer in Chubu Area and Sinetsu area. The analysis of the result from survey brings the needs for proposing the concept model of empowering SSWer and the development of the evaluation system in cooperation with SSWer and teachers using Web.

研究分野：相談援助(スクールソーシャルワーク)

キーワード：スクールソーシャルワーク 評価システム カルテ エンパワメント スケール コンピテンシー

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 社会的背景からみた問題点

児童生徒を取り巻く学校教育現場では、不登校をはじめ児童虐待や要保護児童をはじめとする家庭環境が複雑に絡み合っているケースが年々増加してきているほか、学校だけでなく、児童相談所や児童委員をはじめとする地域の関係機関等との包括的な支援を本格的に導入せざるを得ないケースが増えてきている。スクールソーシャルワークの必要性や重要性が問われている一方で、制度施策の変転に翻弄される状況も相まって、スクールソーシャルワーカーが確実に定着してきているとは言い難い。

1995年度から年々予算を増額しながら配置数も充実させているスクールカウンセラーに対し、SSWerが導入2年目からすでに減少傾向にあるのは、単に予算的問題だけなのか、国や都道府県等が導入効果を見出せなかったからなのか、いまだその検証が十分なされていないまま現在に至っている。このことは、SSWerのキャリア形成と定着意欲に大きな影響を及ぼしていると考えられる。

また、SSWerの配置形態、活動時間、活動内容、報酬については、各都道府県等に任せられ、統一された基準はなく、記録や報告書についても、統一されたものはないため、相談援助のプロセス評価やアウトカム評価をするにも十分とは言えない様式となっている。

そこで、一定の根拠にもとづいたSSWer実践とその能力評価を誰にでもわかる・見える形で提示する必要がある。社会福祉という専門的価値を基軸としながらも、教育の専門家にも理解されていくための有効な手がかりとなるツールが必要である。

### (2) 学術的背景からみた問題点

SSWerが導入されてからの学校現場担当者とSSWerが抱える負担感について、本研究者ら(2009)は、学校現場担当者が抱える負担感の構造は、重い順に 不全感 自責感 という2つの因子から構成されていたとし、一方SSWerが抱える負担感の構造は、重い順に 焦燥感 不全感 不安感 という3つの因子から構成されていたとしている。

これらの調査結果からも、学校教育現場の担当者らとともにSSWerへの有用感に満ちたキャリア支援を図っていくことが、学校教育現場への定着に確実につながると思われ、早急に自己評価ならびに教員との協働評価ができる有効な評価支援システムを確立する必要がある。

また、スクールソーシャルワークの活動においては、「環境調整」をはじめ「エンパワメント」といった漠然とした専門用語が多く、概念図も多用されていることから、「分かりやすく効果を訴えるためには、どう評価すればいいのか」というEvidence-Based Practiceの観点からSSWerの評価に焦点を当てた論文は、少ない。不登校のように出席日数である

程度改善したと評価できるような分かりやすい事例もあるが、配置時間や配置形態の問題もあり、SSWerの主効果とは言い切れず、客観的なデータも取りづらい状況下にある。

したがって、質的な変化を評価にすることは、「数字では表わしきれないSSWerの地道な活動をどう評価すればいいのか」、といったことが問題となることから、SSWerのエンパワメントやコンピテンシーといった評価方法を開発する必要性が生じてくる。

## 2. 研究の目的

本研究は、学校教育現場に配置されているSSWerの“定着支援”に焦点を当てて、SSWerが学校教育現場に確実に定着していくための総合評価支援システムの構築、富山モデルの確立を目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究初年度(平成24年度)

#### 国内外のSSWerの論文の収集

2008年から2012年までの「エンパワメント」「empowerment」という用語が文献タイトルに含まれるもの、またはキーワードあるいは要約に含まれるものを以下の方法で検索し、その中から関連する学会発表および投稿論文、学術論文のみを抽出し、収集および整理を行った。検索方法等は以下の通りである。

- 1) 国立情報学研究所が運営する学術情報データベースによる検索の実施(検索日: 2013年12月18日)
- 2) 特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会が作成する国内医学論文情報データベースによる検索の実施(検索日: 2013年12月18日)
- 3) 社会福祉分野の文献については、エンパワメント獲得のプロセスに焦点を当てたものをもとに、Rodgersの概念分析法を用いて、エンパワメントの概念を分析

総合支援カルテ(冊子版)の開発の試み  
SSWerの総合評価支援システムの構築、すなわち、富山モデルの基盤となるカルテの冊子版の開発を試みた。

### (2) 研究2年目(平成25年度)

「スクールソーシャルワーカーエンパワメントスケール(SSW-ES)」の開発の試み  
Douglas(1993)の“Social Worker Empowerment Scale”を参考に、日本の学校教育現場で働くSSWerが活用できるエンパワメントスケール(SSW-ES)の開発を試みた。

SSW-ESを用いたアンケート調査実施に向けた準備  
「スクールソーシャルワーカー活用事業」を展開している全国自治体の現任SSWerを対象とする実態調査の選定作業を進めた。

### (3) 研究3年目（最終年度：平成26年度）

#### アンケート調査の実施

中部・信越地方（富山県、石川県、福井県、岐阜県、長野県、静岡県）の現任のSSWer計70名を対象に、2014年8月から2015年1月まで、郵送式質問紙調査にて実施した。

#### スクールソーシャルワーカー評価システム（富山モデル）の開発の試み

Webを活用したSSWerと教員との協働評価システムの開発を試みた。

## 4. 研究成果

### (1) 研究初年度（平成24年度）

#### 国内外のSSWerの論文の収集

重複するものを除いた計392件の論文を【社会福祉分野】、【教育分野】、【保健・医療分野】、【その他】に分類した（図1）。

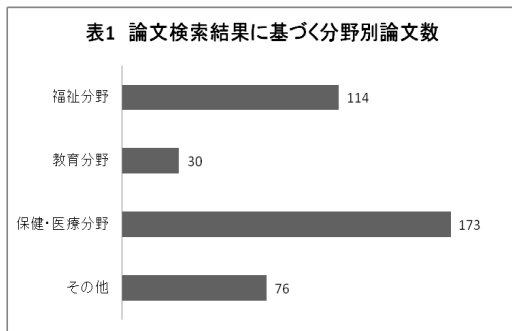


図1 検索結果にもとづく分野別論文の内訳

本研究では、福祉、教育、保健・医療分野の3つの分野に焦点を当て、入手可能であった文献計221件を対象に調査し、社会福祉分野の文献においては、Rodgersの概念分析法を用いて、エンパワメント獲得のプロセスに焦点を当てて、概念分析を行った。

#### エンパワメント概念の分析

エンパワメント獲得のプロセスについては、先行要件として【負担感】、【社会資源の脆弱化】、属性として【知識の獲得】、【環境調整】、【ケア・支援体制】、【主体的な行動】、帰結として【自己実現】、【自己向上】のカテゴリーを抽出できた。以上のことをふまえ、SSWerのエンパワメント概念モデルの素案を作成した（図2）。

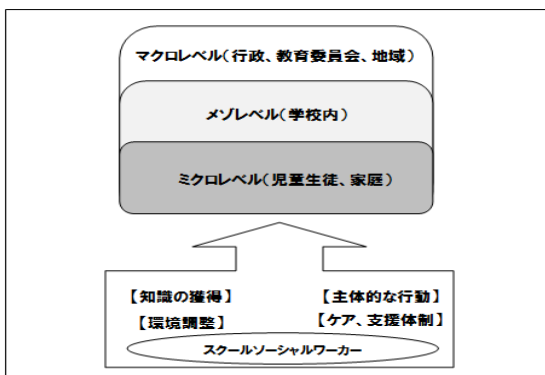
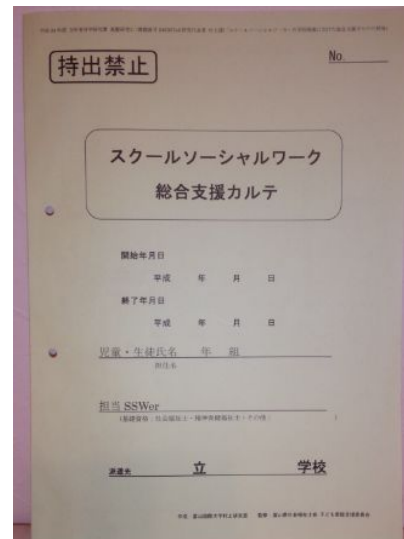


図2 SSWerのエンパワメント概念モデル素案

### 総合支援カルテ（冊子版）の開発

富山モデルの基盤となるカルテの冊子版（A4版、16頁）の開発を行った（写真）。



### (2) 研究2年目（平成25年度）

#### 「スクールソーシャルワーカーエンパワメントスケール（SSW-ES）」の開発の試み

Douglas（1993）の Social Worker Empowerment Scale を参考に、SSWer用の尺度開発を試みた。具体的には、SSWerが活動していく中で、どの程度のエンパワメント力を保持しているのかを5件法（1.全く当てはまらない～5.当てはまる）にて測定する34項目からなる尺度である。

#### SSW-ESを用いたアンケート調査実施に向けた準備

「スクールソーシャルワーカー活用事業」を展開している全国自治体の現任SSWerを対象とする実態調査の選定作業を進めた（再掲）。

### (3) 研究3年目（最終年度：平成26年度）

#### アンケート調査の実施

学校教育現場におけるSSWerの機能に影響を及ぼす要因について明らかにすることを目的に、SSW-ES尺度を用いて、中部・信越地方のSSWerの実態を把握するとともに、今後SSWerが学校教育現場でより活用されていくためには、どのような能力を獲得・保持していかなければならないのかについても検討した。

調査の結果、特にSSWer本人の機能に影響を及ぼしている要因としては、【知識量の不安感】、【ケース発見力への不安感】、【ケース対応への不安感】、【保有する資格以上のことを求められる不安感】、【経験年数による不安感】を新たに見出した。また、これらの要因を改善していくためにも、【職務意識】、【研修体制作り】、【スーパービジョンの体制作り】、【福祉と教育の知識・技術の獲得】、【雇用条件の向上】といった視点が改めて必要であると、以上を

ふまえ、スクールソーシャルワーカーエンパワメント概念モデルを提案した(図3)。

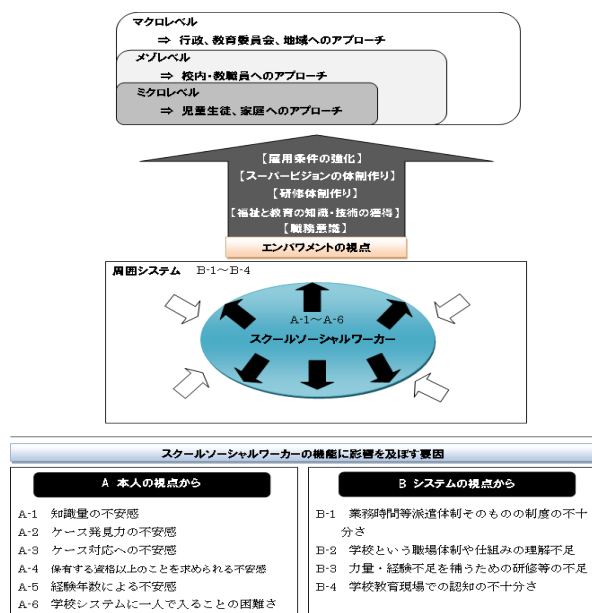


図3 SSWerのエンパワメント概念モデル

### スクールソーシャルワーカー評価システム(富山モデル)の開発の試み

SSWerの事業評価を視覚化していくことが必要であることから、Webを活用したSSWerと教員との協働評価システムを開発した。

[www.three-chords.com/ssw/index.php](http://www.three-chords.com/ssw/index.php)

#### 1) Webシステムでの構築について

Webシステムは、ブラウザと呼ばれるツールで操作する事により、パソコンにソフトをインストールして運用するという作業を行わないでプログラムを動かす事ができるものである。

また、Webサーバ上にプログラムを集約して管理する事によって、トラブル時の対処も簡単に対応する事ができる。

#### 2) Webシステム概要について

システムの最初に、ログイン画面を設置し、ログインID、パスワードによってシステム管理者か一般入力者かの判断を行い、前者の場合は、管理者メニューへ後者の場合は、一般メニューへと画面遷移する。

パスワードは画面に表示されない設定とし、パスワードの変更は、ユーザーが自由に行う事ができることとした。また、ログイン後の処理はセッションパスワードにて内部的に管理されることとした。(パスワード文字列は、ログイン時にランダムに作成される。)

同じユーザーIDでの同時ログインは許可していない。またセッションパスワードは、日々変更されるので、日をまたがってログインしたままの処理を行う事はできない。

#### 3) セキュリティについて

システムは、ユーザーIDとパスワードによってセキュリティ保護されている。パスワード等は、前述の通り、同時ログイン、あるいは日をまたがってログインする事はできないため、入力者は、定期的にログインしなければ操作する事ができないとした。また、万が一、漏洩しても個人に関する情報等は一切サーバでは管理していない。

サーバについては、信頼性の高いLinuxサーバによる構築を行った。

#### 4) システムの開発言語について

当Webシステムは、オープンシステムである、PHP5.3にて作成されている。このバージョンは、データ引継等のセキュリティを強化したものであり、当プログラムシステムも、そのプラットフォームを踏襲した作りとなっている。

データベースは、PostgreSQLというオープンデータベースシステムにて構築されている。このシステムは、他のオープンシステムと比較して、SQL言語の拡張性が高い為将来的な分析機能の拡充に効果を発揮すると考え、採用に至った。

#### 5) 帳票について

帳票はPHPExcelというサブパッケージを使う事により、Linux上でExcel原紙に内容をセットする仕組みを取っている。

当初は、Excel編集専用windowsサーバを構築する予定であったが、Web上にwindowsサーバを構築すると、ポートスキャン等の攻撃にさらされてマシンドウンする恐れがあったため、今回は信頼性の高いLinuxサーバのみで全システムを網羅する運用とした。

Excel原紙のフォームに対する制限はあったが、新規フォーマット(xlsx)にも対応しているため、十分な効果は得られたと考えている。また、グラフとして出力される表現方法については、Webシステムの弱点でもあったが、Excelにて代用することで、さらに2次加工も可能となるようにした。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

村上 満、内島一恵、高校福祉科の「福祉の力」を身につける取り組み、ふくしと教育、第14号、2013、pp.22-25、<http://www.jaass.jp/magazine>

佐々木郁子、川野雅資、村上 満、神奈川県における児童、青年期精神医療の連携で看護師の役割を考える、日本地域連携精神看護学研究会誌、査読有、第2巻、2012、pp.71-77

村上 満、一ノ山隆司、舟崎紀代子、山

本小百合、吉岡一実、「障害者」と「障がい者」の表記イメージに関する研究、医学と生物学、査読有、第 157 巻 6 号、2013、pp.1356-1360

一ノ山隆司、村上 満、松浦純平、吉岡一実、在宅で精神障がい者と生活する家族の負担に関する研究、医学と生物学、査読有、第 157 巻 6 号、2013、pp.1382-1386

村上 満、山本小百合、エンパワメントの概念整理と研究動向 - スクールソーシャルワーカーのエンパワメント構築に向けて -、富山国際大学子ども育成学部紀要、第 5 巻 5 号、2014、pp.193-202、<http://www.tuins.ac.jp/library/pdf/2014kodomu-PDF/2014-14murakami.pdf>

村上 満、山本小百合、スクールソーシャルワーカーの機能に影響を及ぼす要因 - エンパワメント概念モデルの検討に焦点を当てて -、富山国際大学子ども育成学部紀要、第 6 巻 6 号、2015、pp.167-179、<http://www.tuins.ac.jp/library/pdf/2015kodomu-PDF/2015-10murakami.pdf>

〔学会発表〕(計 3 件)

第 20 回社会福祉士学会岡山大会「富山県社会福祉士会による地域密着型スクールソーシャルワーク研修“富山スタンダード”プログラムの検討と取り組みについて」2012 年 6 月 13 日、岡山コンベンションセンター、岡山

環境福祉学会「ソーシャルファームの構築に関する研究 - 富山型八尾風就労支援の実践 - 」2014 年 1 月 25 日、東京四谷会議室、東京

第 58 回日本病院・地域精神医学会総会「スクールソーシャルワーカー活用事業の継続と発展に関する研究～スクールソーシャルワーカーのエンパワメントを支えるシステムに焦点を当てて～」2015 年 11 月 6 日、パルテノン多摩、東京

〔図書〕(計 3 件)

村上 満 他、一藝社、社会福祉、2013、106-118

村上 満 他、北大路書房、現場と実習校のコラボレーション、2013、272-288

村上 満 他、みらい、保育と社会福祉、2015、143-160

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.three-chords.com/ssw/index.php>

6. 研究組織

(1)研究代表者

村上 満 (MURAKAMI, Mitsuru)  
富山国際大学・子ども育成学部・教授  
研究者番号：10555197

(2)研究分担者

大平 泰子 (OHIRA, Taiko)  
富山国際大学・子ども育成学部・講師  
研究者番号：00555188

門田 光司 (KADOTA, Kouji)

久留米大学・文学部・教授  
研究者番号：50269081

(3)研究協力者

山本 小百合 (YAMAMOTO, Sayuri)